

第1回 (仮称)定山溪地区義務教育学校新築検討協議会 議事概要

1 日時

令和3年(2021年)11月10日(水)14:30~15:30

2 場所

定山溪中学校 屋内運動場

3 出席者

別紙のとおり

4 協議会次第

(1) 開会あいさつ(前田学校施設課長)

子どもたちの学びの場、地域の施設としてもより良いものになるよう、学校に関わりの深い方々にご意見等協力をいただきたく、新築検討協議会を開かせていただいている旨の開会の挨拶。

(2) 新築検討委員会・協議会の趣旨説明及び基本設計のスケジュールについて

(資料「新築検討委員会・協議会体系図」、「基本設計 想定スケジュール」)

(伊藤施設整備係長)

ア 新築検討委員会について

新築検討委員会とは、新築の基本設計を行う際に、学校に立ち上げていただいている組織であることを説明。

イ 基本設計のスケジュールについて

資料をもとに、新築検討協議会及び住民説明会のスケジュールを説明。

(3) 義務教育学校の設置の考え方について(武田義務教育担当係長)

(資料「定山溪地区における義務教育学校の設置の考え方について」)

ア 札幌市の小中一貫した教育

札幌市では昨年2月に『札幌市小中一貫した教育基本方針』を策定。この方針に基づいて、札幌市の全小中学校で来年度より小中一貫した教育に取り組むこととしており、全ての小中学校で準備を進めているところ。小中一貫した教育は、小中一体の校舎を建てることではなく、小学校と進学先の中学校がパートナーとしてこれまで以上に連携を図り、様々な取組を行いながら、教育をより充実していく、教育の方法、ソフト面の策である。札幌市内には小中学校様々あるため、一つの中学校に複数の小学校から入学するような地域もあるし、一つの小学校から複数の中学校に入学する地域もあるなど、地域によって状況が異なる。しかしながら、例えば小

中学生が交流を図ったり、合同授業をしたり、小中学校の先生方が合同の研修を実施したりするなど、義務教育の9年間という長いスパンでどのように子どもを育てていくか検討するなど、小中学校の教職員がより手を携えた教育が全ての小中学校で始まることになっている。

基本方針の中では、小中学校の校区が概ね一致している、子どもが校種を超えていつでも交流できる、教職員が話し合いや計画づくりなどを日常的に一緒に行えることなど環境が整っている地域で小中一貫校の設置を検討するとしており、定山溪地区においてはまさにこの条件に当てはまっている。

イ 小中一貫校とは

義務教育学校はいわゆる小中一貫校の一つで、併設型小・中学校の場合は小学校と中学校が別の組織となるが、義務教育学校は組織が一つの、新たな校種となる。

ウ 義務教育学校の設置方針等について

札幌市では、通学区域が概ね小中同一校区で、小中一体の校舎である、または小中一体の校舎整備を行う場合は、義務教育学校として設置するとしていることから、定山溪地区においては、義務教育学校の条件に当てはまっていることから、今日に至っている。

エ 定山溪地区の義務教育学校の校舎で実現したいこと

義務教育学校になることで、様々なメリットが生まれると考えている。たとえば、一つの学校ということで9年間の学びを柔軟にデザインすることができることから、定山溪の地域性を活かした総合的な学習の時間を充実させることができたり、6歳から15歳までの幅広い年齢の子どもたちが一つ屋根の下で日常的に触れ合うため、進級への憧れや規範意識を高めるなど様々なメリットが考えられる。

特に定山溪の新校舎においては、札幌市で義務教育学校として建設する初めてのモデル校となることから、メリットや理想をできるだけ具現化しながら、定山溪らしい夢のある校舎にしたいと考えている。

(4) 児童会館の併設について（奈良放課後児童係長）

現在、定山溪小では、教室を借りてミニ児童会館を運営している。今回、義務教育学校の新築に伴い、学校に複合化した通常の児童会館、新型児童会館として整備する予定である。新型児童会館の計画規模は150㎡という広さで、遊戯室や集会室を設ける予定だが、具体的な中身については、今後様々な意見をいただきながら検討していきたい。

これまでのミニ児童会館では、定山溪小の児童のみを対象として事業を行っていたが、今回整備する新型児童会館については、他の児童会館と同様に0歳～18歳までであれば、誰でも利用可能な施設となる。義務教育学校との複合施設となることから、これまで以上に小中学校、地域との連携協力の中で、活動の幅を広げていくようなことも考えているので、引き続きご協力をお願いしたい。

これまでの定山溪小ミニ児童会館以上に地域に親しまれ、利用していただける施設にしていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

(5) 近年の整備事例及び新校舎の配置計画案について

(資料「(仮称)定山溪地区義務教育学校新築ほか工事基本設計 配置計画案」)

(施設整備係 田中)

ア 近年の整備事例

写真をもとに、近年改築した学校において整備しているワークスペース、多目的室、バリアフリー対策、避難所としての設備について説明。

イ 新築計画の概要

定山溪小学校の校舎は老朽化しており、また敷地が狭小であることから、小学校を定山溪中学校の敷地に移転させ、義務教育学校としての校舎を木造で新築する旨を説明。

現在の中学校の屋内運動場は、アリーナの床や照明などを改修して活用する旨を説明。

ウ 配置計画案について

資料をもとに、新校舎の配置計画案について説明。

現校舎と屋内運動場の北側の空地に建設する平屋建て案、2階建て案について、学習環境、採光・通風、安全性、メンテナンス性、経済性、工事スケジュール等について説明。

(6) 質疑応答

質 疑	回 答
平屋建て、2階建てについて、教育委員会としてどちらが適しているか聞きたい。	(運営面) 9年間の子どもたちが計画して集まるのではなく、日常的に空気を感じられる環境にすることを一番に考えている。その観点から、平屋建てで普通教室が向い合わせになっていると、小さい子どもが日常的の学校生活を送る中で、中学校段階の子どもたちが勉強する姿を、見に行くのではなく、常に触れ合えるような環境と考えると平屋建ての方がメリットが高いと考えている。 一方で、発達の段階にあわせた静かな学習環境の確保も必要だが、広さがあるため、心配ないと考えている。

	<p>日常的な学年交流、小中の先生方が過度の労力なく連携しやすいことを大切にしている。</p> <p>(施設面)</p> <p>施設的には配置計画案での説明のとおり、平屋にメリットがあることに加え、木造建築らしさを出せるという点で、平屋にしたいと考えている。</p>
<p>郷土博物館については、別棟が望ましいと考えているのか。セキュリティなどを考えたときに、校舎内に取り込んだ方がいいという考えもあると思う。</p>	<p>平屋だと、南面の昇降口の配置や、通学動線が見える職員室の配置、給食室の配置を考えると、校舎内で適切な場所に郷土博物館を配置することができないことから、別棟とした。</p>
<p>避難所としての倉庫を、別棟でも構わないので確保してほしい。</p>	<p>現在も中学校は避難所指定されており、屋外に備蓄庫がある。新校舎建設にあたり支障になる場合は、移設や校舎内への整備を検討する。</p>
<p>現状、小さな子どもを定山溪保育所に預け、パートで働きにきている人がいるが、その子どもたちがそのまま小学校に通えるよう、簾舞や川沿まで校区の枠を広げることはいか。</p>	<p>義務教育学校に併設する児童会館の児童クラブに預ける場合、ご希望があれば手続きをして、校区を変更して通うことができる。</p>
<p>現在はコロナの影響で停滞しているが、今後、技能実習生の受け入れにより、外国人労働者が増える可能性がある。児童生徒数が増えることも想定してほしい。</p>	<p>現在、小学校が段階的に35人学級となっているが、定山溪でも9クラス35人までは入れるように整備する。</p> <p>将来的に人口が増加した場合は、他の地域と同様に、改修や増築等により必要な教室を確保していく。</p>
<p>小学校では開校 80 周年の記念に植樹しており、その木が今どうなっているかわからないが、木造建築になるのであれば、新しい学校に使うことができればよい。</p>	<p>実際に生えている木を建物に使うには技術的にも難しい部分があるが、今ある樹木の活用は今後検討していく。</p>
<p>木材が値上がりしていて心配だが、途中で木造でなくなるなど、変わることはないか。</p>	<p>主に輸入材が高騰しているが、なるべく北海道内の地域材を使うことで対応したい。</p>
<p>木造は十年そこそこでカビや腐りがあるが、大丈夫か。十分なメンテナンスをしないと、小金湯のアイヌ文化交流セ</p>	<p>構造体は木造として、場所によりガルバリウム鋼板など耐久性のある素材を使ったり、木を見せる箇所については、</p>

<p>ンターのように外壁がカビだらけで、なんとなく汚いイメージになる。</p>	<p>庇をつけて雨が直接当たらないようにしたり、メンテナンスをしやすくするなど工夫していきたい。</p>
<p>路線バスを利用して通学する子どももいるが、バスに座れなかったり、冬場は時間が遅れたり、定山溪中からバス停までの道のりが部活帰りだと暗い状況。 スクールバスがあれば、保育所あがりの人など定山溪に通いたいという人もいると思う。</p>	<p>市内でスクールバス運行しているのは、資生館小と新川小の2校だが、路線バスが使えない場合のみ運行している状況。今後バス通学が増えてきた場合、まずはバスの増便から検討していくことになる。現時点では導入が難しいということをご理解いただきたい。</p>
<p>バス停までの外灯設置については、町内会で街路灯組合連合会に補助申請するという方法もある。学校の外灯の設計内容が決まったら、情報提供いただきたい。</p>	<p>教育委員会でも外灯の状況を調べて対応を検討していきたい。</p>
<p>普通教室を北側にすると日が入らず、暗くならないか。教室の壁を抜けるようにして、広い部屋として一体で使うことはできれば、普通教室の一例並びもメリットがあると思う。</p>	<p>教室間の壁は、黒板や雨具掛けなどがあり抜くのが難しい。定山溪でも設ける予定だが、改築校では教室前にワークスペースを設けており、そういった空間で異学年交流を想定している。 普通教室の配置については、次回協議会で検討したい。</p>
<p>定山溪は交通手段がじょうてつバスしかない。昨年から札幌駅行、真駒内駅行ともに定山溪中のバス停に停まるようになったが、今また一つ新しいホテルも建つので、従業員の方が働きやすく人が集まるよう、住みよくして交通の便がよくなるよう、これからじょうてつバスと色々話合いをしていきたいと思っている。新しい学校が建つまでに地域としても動いていきたいと思っているので、教育委員会の方も、協力してもらいたい。</p>	<p>学校と連携しながら、協力していきたい。</p>
<p>配置計画案等についての意見</p>	
<p>定山溪小にて2年前に、京都にある大原小中学校の視察に行った際の資料が、義務教育学校になるにあたり参考になると思うので、お配りしたい（別添資料を配付）。</p>	

令和7年度のオープンのときに何人いるのか心配。今年度の就学時検診は2名だった。定山溪保育所に通う年長さんは7名いるため、その子たちを新1年生として迎えられる体制を整えられるといい。魅力あるまちづくりを前提に、新しい義務教育学校も一つのコンセプトにして、立派な素晴らしい学校になって、子どもたちの声がたくさん聞けるといいなと思う。平屋建てに賛成。積雪にも配慮した配置となっていてよい。

来年の新1年生はタイやハーフの子など、国際色豊かになっている。特別支援学級のニーズが増えていくことも考えられ、学びの多様化が義務教育学校にも求められている。ADHDの児童は、色々な刺激に敏感に反応するため、小中学校の一体化は非常にいいと思うが、そういったところにも配慮が必要。個別学習や個別対応など、色々なことに対応できる校舎になるといい。

東川町の小学校はほとんどオープンスペースになっており、廊下にドアがない。児童会館も入っており、授業を終えた子どもたちが同じ建物の中で遊んでいる光景もあった。定山溪ではこの広さがあれば、真ん中に児童会館があっても問題ないと思う。

【結論】

配置計画については、平屋建て案をベースとして、教室等の配置案を検討することとする。

(7) 新築検討委員会委員長あいさつ(小林定山溪中学校長)

改めまして本日は本当にありがとうございます。検討委員会ですが、地域とともにある学校づくりという札幌市の開発事業の研究指定を受け、コミュニティスクールの検討委員会を立ち上げ、新築検討委員会と2つの顔を持った委員会として立ち上げさせていただきます。今後、コミュニティスクールを進めていくと同時に、新築についても一緒に考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

準備をしている間も、やっぱり新しい学校というのはわくわくします。ここはどんなんだろうと話していても、今までにない楽しみ、わくわくが止まりません。このわくわくは、地域もそうですし、児童生徒や保護者もそうですし、絶対に伝わります。皆さんと協力していい学校を作って行けたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以上

(仮称)定山溪地区義務教育学校 新築検討協議会 名簿

出欠↓

	所属	役職・係等	氏名	1回目
検討委員会メンバー 12名	地域・評議員関係	定山溪連合町内会 会長	陰元 潤一	○
		体育・青少年育成部長	江刺家 博	○
		学校評議員(小中兼務)	井口 榮子	○
		定山溪まちづくりセンター所長	月宮 広二	○
	PTA関係	定山溪小PTA会長	奥田 康博	×
		定山溪中PTA会長	山内 幸江	○
	児童会館関係	定山溪小ミニ児童会館 館長	酒井 久美	○
	学校関係	定山溪小 校長	金野 智	○
		定山溪小 教頭	山本 尚枝	○
		定山溪中 校長	小林 大介	○
		定山溪中 教頭	宮武 祐子	○
		定山溪中 主幹教諭	佐藤 英希	○
札幌市関係 13名	教育委員会生涯学習部 学校施設課	学校施設課長	前田 憲一	○
		計画係	高橋 花	○
		施設整備係長	伊藤 哲夫	○
		施設整備係	田中 孝恒	○
	教育委員会学校教育部 教育推進課 教育課程担当課	学びのプロジェクト担当係長	柴垣 孝治	○
		義務教育担当係長	武田 暁仁	○
		都市局建築部 建築工事課	工事三係長	山崎 大史
	子ども未来局子ども育成部 子ども企画課	工事三係	石黒 健太	○
		施設保全担当係長	片桐 有也	○
		放課後児童係長	奈良 晴洋	○
		放課後児童係	菊地 美絵	○
	設計事務所	株式会社アトリエブク	池村 菜々	○
			福山 将斗	○